

一般財団法人 青函トンネル記念館

【 鉄道経営計画 】

令和4年3月31日

【青函トンネル記念館 鉄道経営計画】

I. 概要

当法人は、青函トンネルの建設について広く国民に紹介することと、それに伴う観光の振興に努めることによって地域経済の振興に寄与することを目的として、昭和63年7月に営業を開始しました。同時に体験坑道（トンネル）見学も実施しており、実際に作業の場として使われた場所を体験出来るコースとして好評を博しております。記念館駅～体験坑道駅間のケーブルカーの運行が鉄道事業となっておりますが、片道778mの短い運行ではありますが安全・快適な移動手段として提供できるよう努めております。今後も新型コロナウイルスの影響が続くものと考えられますが、感染予防対策にも引き続き取り組んでまいります。青函トンネルを紹介する施設として足を運んでいただいた皆様に満足していただけますよう、なお一層、安全第一の意識を徹底して、職員一同努力してまいります所存です。

一般財団法人 青函トンネル記念館
理事長 外崎 文雄

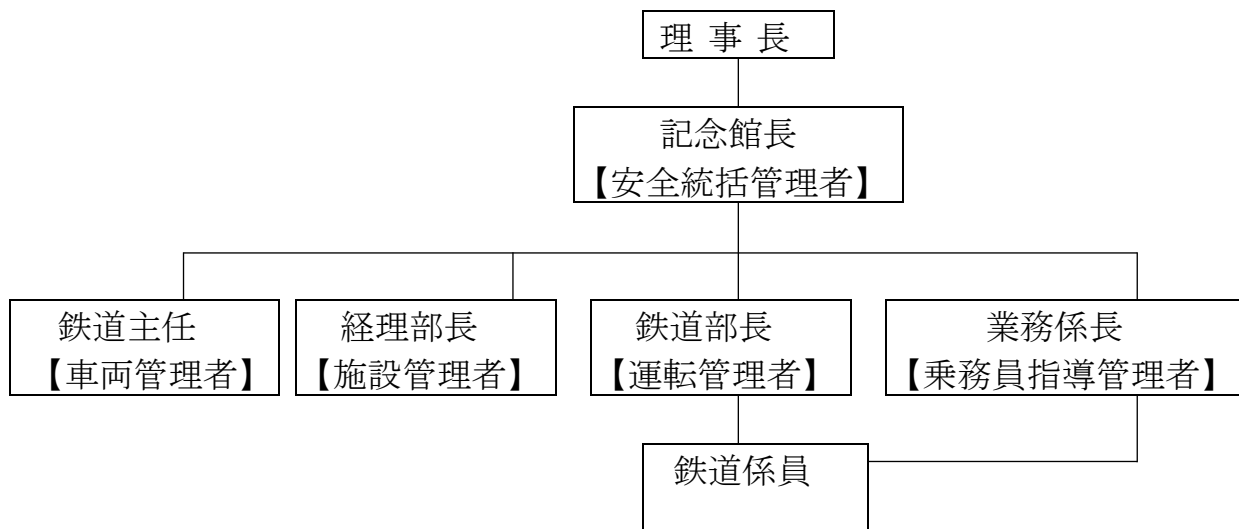
II. 安全輸送の確保

- 目 標 ①無事故運転の継続
②輸送障害の防止

- 重点事項①安全教育の徹底
②指揮命令系統の確認

- ・基本動作の励行
- ・安全確認の徹底
- ・機器点検の強化
- ・基準作業の実行
- ・連絡確認の徹底
- ・緊急処置体制の向上

安全管理体制



各管理者の役割

役 職	役 割
理 事 長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う
記 念 館 長 【安全統括管理者】	輸送の安全の確保に関する業務を統括する
鉄 道 部 長 【運転管理者】	運転に関する事項を統括する
経 理 部 長 【施設管理者】	施設に関する事項を統括する
鉄 道 主 任 【車両管理者】	車両に関する事項を統括する
業 務 係 長 【乗務員指導管理者】	運転士の資質の保持に関する事項を管理する

Ⅲ. サービスの向上

- ・あいさつ（声かけ）の実施
- ・積極的に利用者の誘導を行う
- ・バリアフリーへの対応
- ・臨時便の運行
- ・わかりやすい案内、説明を心がける

Ⅳ. 運営基盤の安定化

- ・PR活動の実施
- ・旅行会社への周知徹底（ツアー企画）
- ・JR北海道との協力体制強化
- ・関係機関との連携協力
- ・企画イベントの実施検討
- ・冬期間の収益強化

Ⅴ. 損益計画

(単位：千円)

項 目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
収 入	14,630	21,950	24,145
旅客運賃収入	14,630	21,950	24,145
支 出	17,838	22,975	21,018
人 件 費	15,287	15,745	16,218
施設使用料	300	300	300
経 費	2,251	6,930	4,500
差 引 損 益	△3,208	△1,025	3,127
累 積 損 益	△3,208	△4,233	△1,106

VI. 人員計画	令和4度	令和5度	令和6度
職 員 数	8人	8人	8人
職員の養成	新規採用1人		

VII. 特記事項

- ・新型コロナウイルスの状況により、運休等について協議をして運営判断する。